

宮崎県

宮崎県では、「連携・協働」及び「通級による指導担当者」の研修コアカリキュラム案を活用した『研修の企画・実践』として、次のような取組が行われた。

- ・上級特別支援教育コーディネーター養成研修カリキュラムの構築
- ・福祉、医療機関等と連携した研修の充実
- ・教育研修センター及び各エリアにおける発達障害者支援の専門性に係る研修の体系化
- ・通級メンター養成研修カリキュラムの構築

1. (人材育成の)現状

宮崎県では、教育研修センターや特別支援教育課が実施するエリア研修において、「発達障がい」や「教育と福祉の連携・協働」に関する研修を実施している。中でも、地域の中核となる教員を育成することを目的としている「上級特別支援教育コーディネーター養成研修」では、医療や福祉関係機関と連携し、研修内容を検討したり、講師として招聘したりする等、協力を得て研修を実施している。

これまでは、教育研修センターで実施している研修と特別支援教育課で実施しているエリア研修の関連性が整理されていないことから、内容の重複などの課題があった。また、本県の教員育成指標には、特別支援教育に関する資質・能力に特化したものが示されていないため、教育研修センターで実施しているステージごとの選択研修の内容を決める上で系統性をもたせることができていない状況であった。

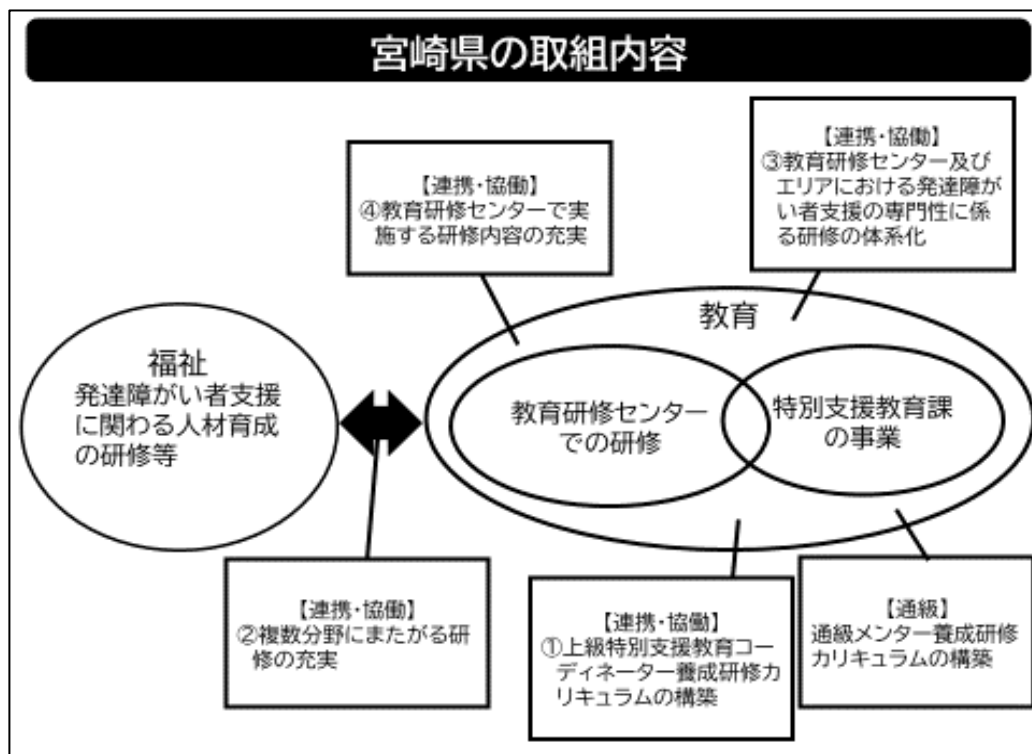


図1 宮崎県の取組内容

2. (人材育成プロジェクトの) 取組の概要

本県は、「発達障害者支援の専門性に係る連携・協働に関する研修コアカリキュラム(案)」の検証と、「通級による指導の担当者の専門性に関する研修コアカリキュラム(案)」の検証の2つに取り組んだ(図1)。

(1) 発達障害者支援の専門性に係る連携・協働に関する研修コアカリキュラム(案)の検証
発達障がい者支援に関わる人材を育成するために、福祉関係と教育関係が相互に乗り入れたり協力したりして、研修の内容と場が充実することを目指し、①上級特別支援教育コーディネーター養成研修カリキュラムの構築、②複数分野にまたがる研修の充実、③教育研修センター及びエリア研修における発達障がい者支援の専門性に係る研修の体系化、④教育研修センターで実施する研修内容の充実、の4つの内容に取り組んだ。

① 上級特別支援教育コーディネーター養成研修カリキュラムの構築

「上級」として身につけるべき資質や、系統性のある研修内容について協議を行った。また、研修修了者の役割等についても協議を行った。上級特別支援教育コーディネーター養成研修の修了者には、高いコンサルテーション力が求められるため、3日間の研修で必要な知識が習得できるよう、講義や演習の内容を構築した。研修コアカリキュラムの内容を検証し、上級特別支援教育コーディネーター養成研修のカリキュラムを再構築したものが図2である。

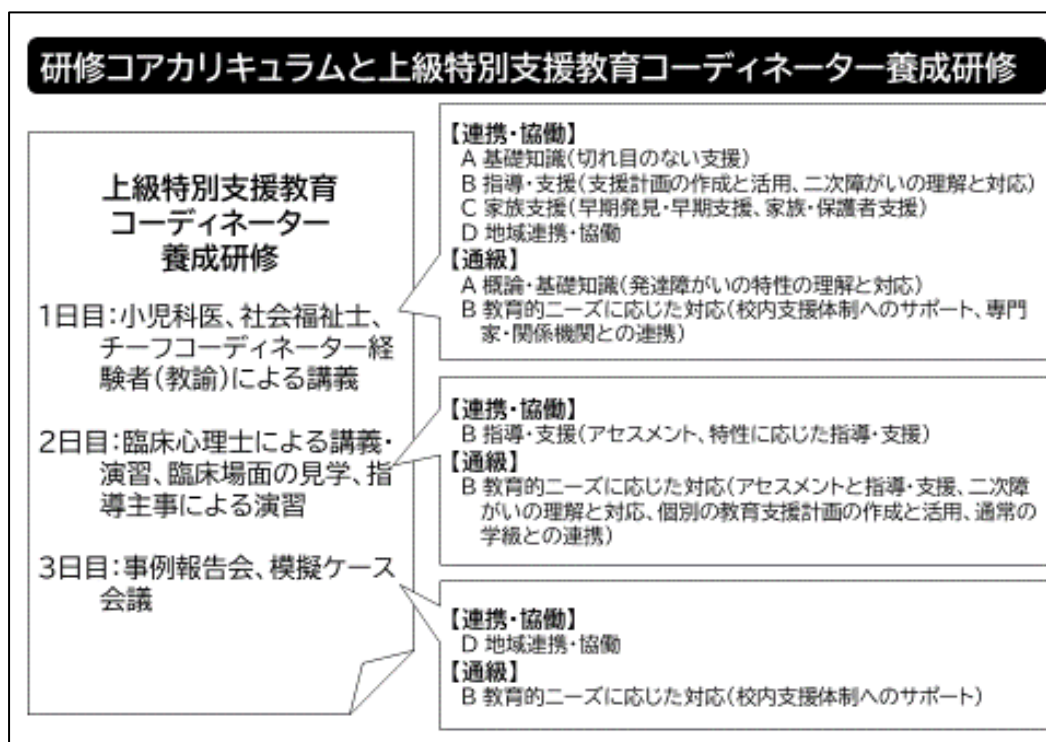


図2 研修コアカリキュラムと上級特別支援教育コーディネーター養成研修

② 複数分野にまたがる研修の充実

県中央発達障害者支援センターと協議を行い、福祉等の関係機関が主催する研修において教育の取組を紹介するとともに、教員が参加できるようにすることで、福祉等の関係機関との連携が図られるように計画した。

③ 教育研修センター及びエリア研修における発達障がい者支援の専門性に係る研修の体系化

研修コアカリキュラムを参考に、教育研修センターと各エリアで行う研修の内容について一覧表を作成し、研修の目的や経験等に応じて一覧表で研修の系統性が分かるように整理した(図3)。

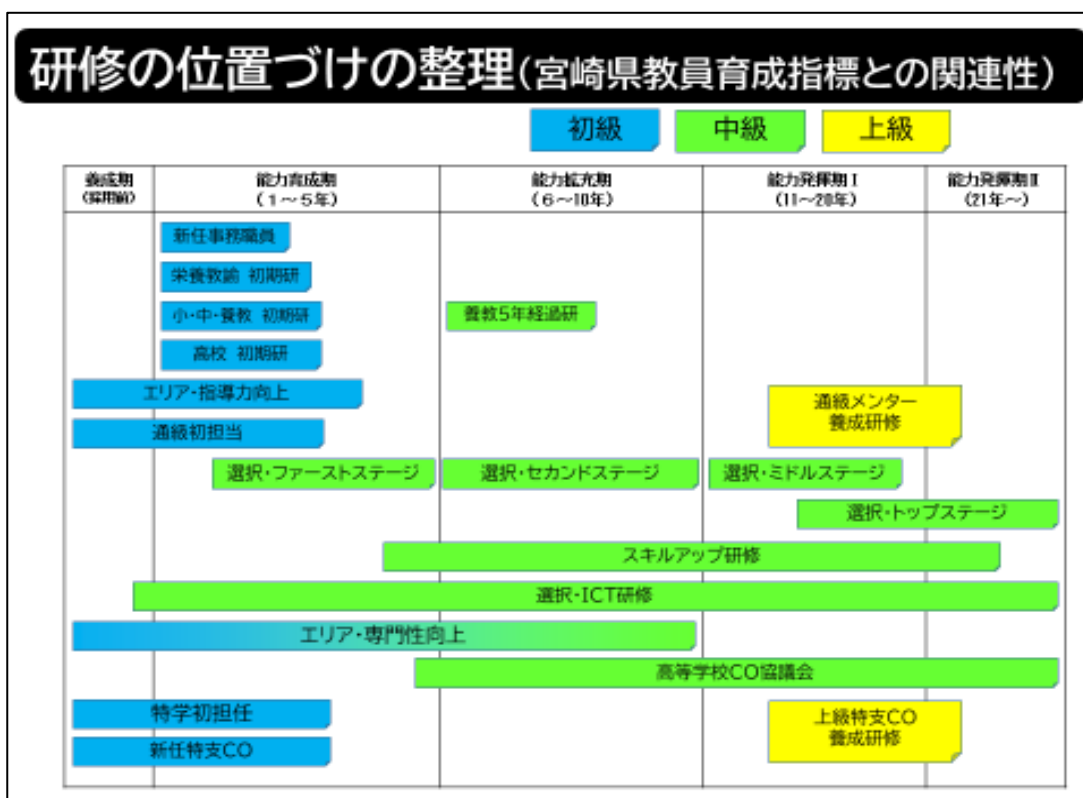


図3 研修の位置づけの整理

④ 教育研修センターで実施する研修内容の充実

発達障がい者支援の専門性の向上を内容とした教職経験の構成したステージごとの選択研修について、受講者からのアンケートを活用して内容の充実を図った。また、「NISE学びラボ」を活用した研修を実施した。

(2) 通級による指導の担当者の専門性に関する研修コアカリキュラム(案)の検証

通級による指導の専門性を高めるための助言や、高い専門性と経験を有する教員を養成するための通級メンター養成研修カリキュラムについて協議を行った。

3. 成果と課題

(1) 成果

- 上級特別支援教育コーディネーター養成研修については、研修の目的や内容を検討し、医療や福祉と連携した研修を実施することができた。
- 複数分野にまたがる研修の充実については、県中央発達障害者支援センターと連携して研修を創設し、今年度は動画の配信を行うことができた。
- 教育研修センター及びエリア研修の体系化については、宮崎県教員育成指標との関係性で整理することができた。また、エリアサポート推進協議会作業部会において教育研修センターで実施している研修内容を伝え、研修の体系化につなげることができた。
- 教育研修センターで実施する研修内容の充実については、発達障がいのある子供への支援を段階的に学ぶことができるように、選択研修の内容を充実させた。また、初期研修1年目に対して「NISE学びラボ」を活用した研修を実施することができた。
- 通級メンター養成研修カリキュラムの構築については、協議を重ね、実施要項を作成することができた。

(2) 課題

- 既存の会議や研修等を活用したり、各エリアで実施している福祉との連携を可視化したりして、関係部局との連携の充実を図る必要がある。
- 中級にあたる研修、令和4年度の実施に向けた通級メンター養成研修や上級特別支援教育コーディネーター養成研修修了者のためのリフレッシュ研修について検討し、地域の核となる人材を育成するための研修カリキュラムの充実を目指す必要がある。
- 「NISE学びラボ」を活用するなどして、宮崎県版研修カリキュラムの充実を目指す必要がある。

4. その他

補足資料

(宮崎県教育研修センター 後藤 あらた)

【補足資料】

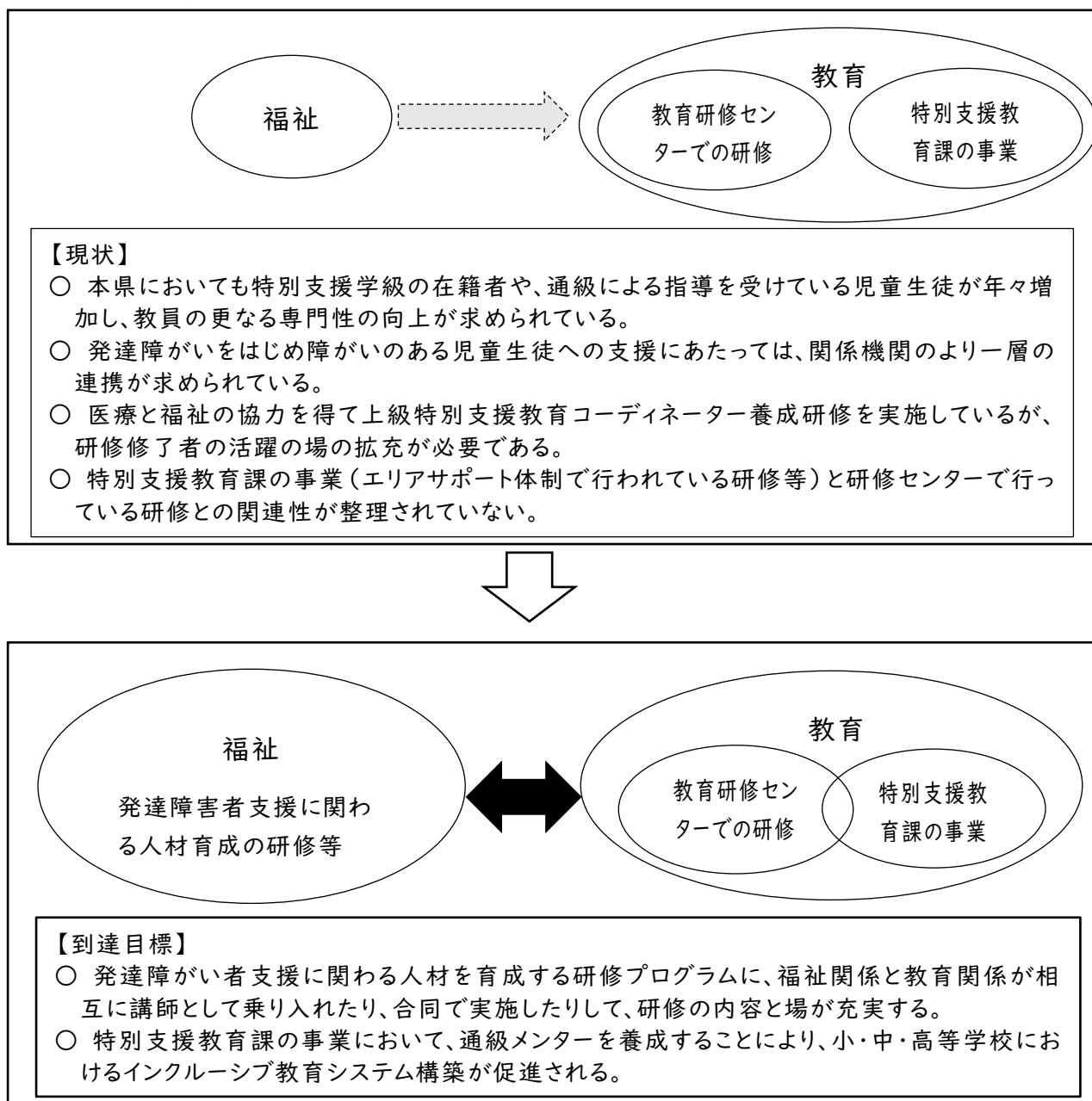
「特別支援教育担当教員の資質向上に向けた人材育成プロジェクト」の取組

1 研究協力事業の内容

以下の取組の両方の実践的検証を行う。

- (1) 発達障害者支援の専門性に係る連携・協働に関する研修コアカリキュラム(案)
- (2) 通級による指導の担当者の専門性に関する研修コアカリキュラム(案)

2 検証の全体像



3 具体的な取組計画

(1) 発達障害者支援の専門性に係る連携・協働に関する研修コアカリキュラム(案)の検証

到達点	取組内容		
医療・福祉と連携した発達障がい支援者育成研修の充実	① 上級特別支援教育コーディネーター養成研修カリキュラムの構築	ア 特別支援教育コーディネーターの専門性について整理する。(段階的な整理)	
		イ 「上級」として身につけるべき資質を明確化し、一貫性のある研修プログラムを作成する。(目的、内容、福祉・医療との連携、日数、通級メンター研修との兼ね合い)	
		ウ 研修センターにおいて行われている研修とエリア研修を整理し、「初級」と「中級」の位置づけを行う。	
		エ 「上級」の受講資格に、「中級」終了を加える。	
		オ 「上級」修了者に対する「リフレッシュ(アップデート)研修」の位置づけを行う。(実施している研修の中から選定、周知方法の検討)	
		カ 「上級」修了者の役割を明確化する。(エリア巡回支援や研修での活用等を検討する。)	
	② 複数分野にまたがる研修の充実	ア 各エリアでの福祉等との研修の連携に関する取組を整理し、既存の研修を改善したり、必要な研修を創設したりする。(教育、医療、福祉等の関係者による協議会での検討)	
		イ 「連携」について整理する。(何ができれば連携できたと評価できるのか)	
		ウ 連携の充実を図る。	障がい福祉課との連携(特別支援教育課と障がい福祉課の取組に関する情報共有、連携可能な取組内容の検討)
			宮崎県中央発達障害者支援センターとの連携(発障センターとの研修会における連携と研修内容の整理)
			雇用労働政策課との連携(みやざき若者サポートステーションに関する情報共有と活用に関する啓発、「個別の教育支援計画」の活用促進に関する連携協議会)
			宮崎障害者職業センターとの連携(個別の教育支援計画の活用に関する連携、特別支援教育課主催の県立・私立高等学校及び中等教育学校特別支援教育コーディネーター連絡協議会における連携と研修内容の整理、高校通級担当者との連携)
			児童クラブ等への発信(発達障がい等の特性に関する理解や福祉等も対象とした研修会の実施について発信)
エ エリアサポート推進協議会との情報共有等			
③ 教育研修センター及びエリアにおける発達障がい者支援の専門性に係る研修の体系化	ア 研修コアカリキュラムをもとに、「発達障害者支援の専門性」について整理をする。(宮崎県教員育成指標との兼ね合い)		
	イ エリア内の研修における専門性向上のねらいを明確にし、研修センターにおける研修内容との重複を避けることで、研修の体系化を図る。		

	④ 教育研修センターで実施する研修内容の充実	ア 受講者のアンケート結果から、発達障がい支援者を育成できる研修内容であったか（研修の内容を理解し、実践できる内容であったか）を分析し、今後の研修内容の充実を図る。（学習研修課が実施しているアンケートを活用する。）
		イ 「学びラボ」の活用を検討し、実施する。
		ウ 研修一覧をホームページで情報発信する。

(2) 通級による指導の担当者の専門性に関する研修コアカリキュラム(案)の検証

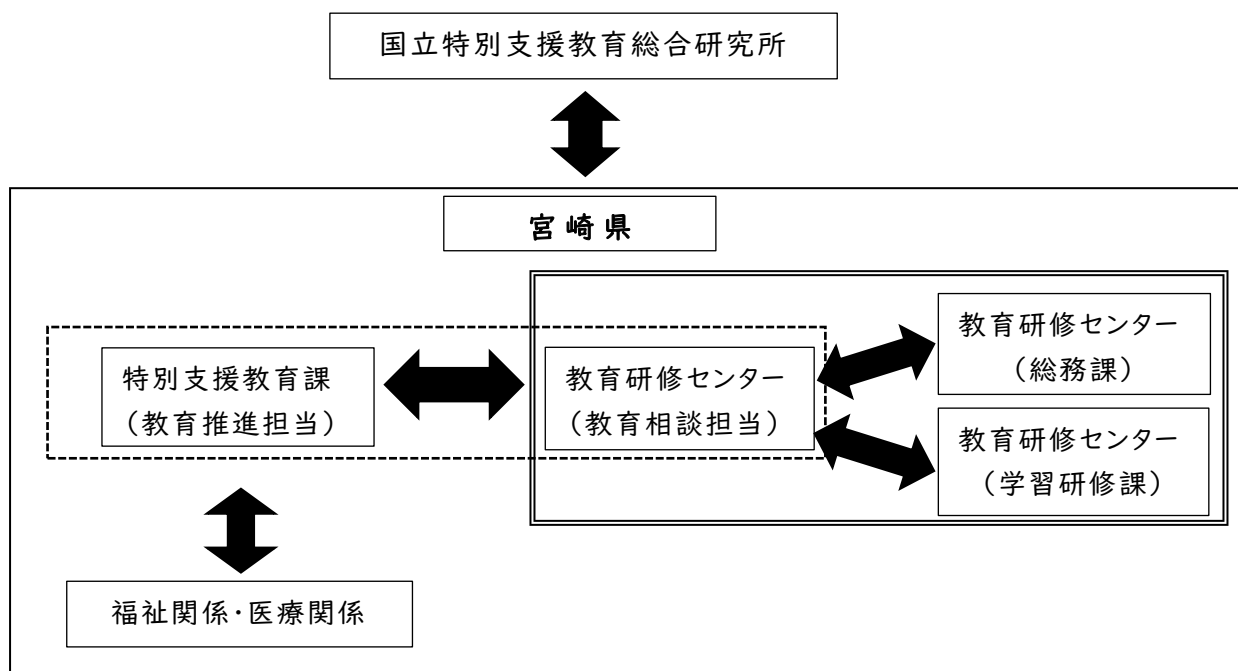
到達点	取組内容	
小・中・高等学校におけるインクルーシブ教育システム構築の推進	通級メンター養成研修カリキュラムの構築	ア 通級による指導の担当者の専門性について、段階的に整理する。（特別支援教育コーディネーター、エリアコーディネーター、チーフコーディネーターとの関係性の整理）
		イ 「通級メンター養成研修」のねらいを明確化し、系統性のある研修プログラムを作成する。
		ウ 研修センターにおいて行われている研修を「初級」と位置づけ、研修内容の充実を図る。また、新規事業で実施する経験の浅い教員を対象にした研修も活用する。（研修の関連性の整理）
		エ 「通級メンター養成研修」修了者の役割を明確にする。（研修での活用等を検討する。）

通級メンター：他校の通級指導担当者に対し、自立活動に相当する指導や通常の学級の担当者に対するコンサルテーションの在り方など、通級による指導の専門性を高めるための助言や支援を行う高い専門性と経験を有する教員のこと。

(3) 履修証明の検討

- 現状を把握する。（受講状況の管理をどのように行っているのか、課題は何か）
- 今後に向けて、履修証明と研修コアカリキュラムとの関連性を検討する。
- 研修の体系化と受講管理（履修履歴の確認と受講の促しが可能なシステムの構築）

4 研究組織図



5 研究の実際

- 上級特別支援教育コーディネーター養成研修については、研修の目的や内容を検討し、医療や福祉と連携した研修を実施することができた。今後も地域の核となる人材を育成するための研修の充実を目指し、今年度の取組内容を継続して検討する。
- 複数分野にまたがる研修の充実については、県中央発達障害者支援センターと連携して研修を創設し、動画の配信を行うことができた。今後は、今年度予定していたがコロナ禍で実施できなかった研修の実現を目指すとともに、既存の研修や会議等を活用し、関係機関と連携した研修の充実を目指す。
- 教育研修センター及びエリアにおける発達障がい者支援の専門性に係る研修の体系化については、実施している研修について、宮崎県教員育成指標との関係性で初級、中級、上級で整理することができた。また、エリアサポート推進協議会作業部会において教育研修センターで実施している研修を伝えることができた。今後も、研修内容の重複を避けるために、エリアサポート推進協議会作業部会で研修の内容を伝えるとともに、研修コアカリキュラムを活用したエリア研修への助言を行う。
- 教育研修センターで実施する研修内容の充実については、発達障がいのある子供への支援を段階的に学ぶことができるように、選択研修の内容を充実させることができた。また、初期研修1年目に対して「NISE学びラボ」を活用した研修を実施することができた。今後も「NISE学びラボ」を活用した研修や、ホームページを活用した学びの場の情報発信について継続して検討する。
- 履修証明については十分な検討はできなかった。個人の「学びの地図」として、研修コアカリキュラムを活用した履修証明を検討したい。

6 研究の評価

到達目標	評価項目		評価
<p>○ 発達障がい者支援に関わる人材を育成する研修プログラムに、福祉関係と教育関係が相互に講師として乗り入れたり、合同で実施したりして、研修の内容と場が充実する。</p> <p>○ 特別支援教育課の事業において、通級メンターを養成することにより、小・中・高等学校におけるインクルーシブ教育システム構築が促進する。</p>	宮崎県版研修カリキュラムの作成	福祉との連携や、学びラボを活用した研修一覧ができたか。	<p>今年度は感染症拡大防止の影響で計画通りに研修を実施することができなかつたため、目標を達成することはできなかつた。しかし、特別支援教育課と教育研修センターで協議を積み重ねながら研究に取り組むことができたことにより、研修の全体像を見直したり、課題を整理したりすることができた。</p> <p>目標を達成するためには、今年度のように協議の場を工夫し、関係機関との連携を図りながら、検討し続けていくことが重要である。</p>
		通級メンター養成研修の研修を構築できたか。	
		特別支援教育コーディネーター及び通級メンターの初級、中級、上級が、教育研修センターの研修一覧表に明記されているか。	
	HPでの情報発信	特別支援教育に係る研修の一覧を、教育研修センターのHPに掲載したか。	

7 令和3年度の実施計画(案)

次年度の実施計画の詳細については、4月以降に特別支援教育課と教育研修センターで協議する。

	取組項目	具体的な内容
1	福祉部局との連携の充実	既存の研修や会議等を活用する。
		各エリアで行われている福祉との連携の実施について、可視化する。
2	地域の核となる人材を育成するための研修カリキュラムの充実	受講者のアンケートから研修のねらいや内容等について検証を行う。
		上級特別支援教育コーディネーターの専門性と到達目標について整理する。
		「中級」にあたる研修を検討する。
		「リフレッシュ研修」を検討する。
		通級メンター養成研修は令和4年度の実施に向けて、詳細を検討する。

3	宮崎県版研修カリキュラムの充実	研修コアカリキュラムを、個人の「学びの地図」としての活用に向けて検討する。
		研修コアカリキュラムについて啓発を行う。
		「NISE学びラボ」を活用した研修を実施する。
		宮崎県版研修カリキュラムをホームページで情報発信する。